

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	18257
課題名	内因性ぶどう膜炎の予後に関連する因子の検討 (後ろ向き研究)
研究期間	倫理委員会承認日 ~ 2024年 3月 31日
研究の対象	2008年4月~2019年3月に当院眼科を初診し、ぶどう膜炎外来で診察を受けられた方
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報 (詳細：病型、性別、初診時年齢、発症年齢、治療方法、副作用など) <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織 (対象臓器等名：) <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他 ()
研究の意義、目的	<p>内因性ぶどう膜炎とは、眼球の外傷などの外因によらずに生じるぶどう膜炎で、ウイルスなどによる感染性とベーチェット病や Vogt-小柳-原田病などのような非感染性があります。感染に対しては抗生剤や抗ウイルス薬など、非感染性のものに対しては、ステロイドや免疫抑制薬が使われます。</p> <p>近年、新しい治療薬が使えるようになってきていますが、ぶどう膜炎の予後に関連する、臨床所見や既存薬の投薬方法などは十分に分かっていない部分もあります。今後の治療を考えられる上でも、既存治療での成績、予後に関連する因子を知ることは有用です。内因性ぶどう膜炎の病型頻度を確認した上で、予後に関連する因子を検討します。</p>
研究の方法	<p>2008年4月から2019年3月までに旭川医大病院眼科を初診して、ぶどう膜炎外来を受診した方の診療記録を調査します。</p> <p>病型、性別、初診時年齢、発症年齢、最終視力について割合を調べ、病型別の炎症部位の割合を検討します。</p> <p>1年以上の経過が見られた方を調べ、通院期間、最終視力、治療方法、薬の副作用などを検討します。良好な炎症のコントロールや視機能に関連する因子を調べます (治療開始が早いと炎症をコントロールしやすいかなどを調べます)。</p>
その他	
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先 研究責任者：旭川医科大学 医工連携総研講座 特任准教授 木ノ内玲子</p>

	住所 旭川市緑ヶ丘東 2-1-1-1 旭川医大 眼科 電話 0166-68-2543
--	---